

2024年10月期第3四半期 決算補足説明資料

株式会社CAICA DIGITAL(2315)

2024年9月13日

01	概要	03
02	2024年10月期 第3四半期決算	10
03	2024年10月期 通期業績見通し	27
04	中期経営計画	31
05	トピックス	40
06	Appendix	55

01

概要

02

2024年10月期 第3四半期決算

03

2024年10月期 通期業績見通し

04

中期経営計画

05

トピックス

06

Appendix

商号	株式会社CAICA DIGITAL
事業内容	グループ会社の管理運営
設立	1989年7月14日
所在地	東京都港区南青山五丁目11番9号
代表	代表取締役社長 鈴木 伸 代表取締役副社長 山口 健治
資本金	50百万円(2024.03.01現在)
連結売上高	5,679百万円(2023.10.31現在)
決算期	10月
上場市場	東京証券取引所スタンダード

主要子会社	
商号	株式会社CAICAテクノロジーズ
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> システムインテグレーション業務 ITサービス業務 Web3関連開発業務
設立	2019年10月7日
代表	代表取締役社長 鈴木 伸 代表取締役副社長 鈴木 偉真
資本金	301百万円
商号	株式会社カイカフィナンシャルホールディングス
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> Zaif INO運営業務 Web3コンサルティング業務 カスタマーディベロップメント業務
設立	2021年11月1日
代表	代表取締役社長 鈴木 伸
資本金	50百万円

※ カイカ証券は金融商品取引業の廃止に伴い、2023年12月1日付で商号を株式会社EWJ（英語表記：EWJ Inc.）に変更し、現在残務整理を行っております。なお、本スライドでは呼称をカイカ証券と統一致します。

当社のセグメント

当社は、安定的な収益を生む「ITサービス事業」、拡大するマーケットの中で収益獲得を見込む「金融サービス事業」から構成されます。ITサービス事業においては上流工程の獲得や、価格改定により、より強固な収益体制を目指します。金融サービス事業においては2023年10月期末の再編に伴い慢性的な赤字体質を改善し、グループへの貢献を図ってまいります。

ITサービス事業

ITサービス事業

ブロックチェーン等の最先端技術や豊富な開発実績を活かした自社開発のITサービスを販売しております。企業のデジタル・トランスフォーメーション（DX）化を実現します。

システムインテグレーション事業

金融、ポイント・決済、公共・官公庁、EC・通販をはじめとした業界領域で培ったノウハウを基に、システムの企画検討から、設計・構築、運用・保守に至るまで、フロント、バックオフィスから基幹系システムを問わず最適なシステム提供をいたします。

DXソリューションサービス事業

AIを活用したDXソリューションの開発を手掛けるベンダーと提携し、DXソリューションの販売を行います。

金融サービス事業

Zaif INO運営事業

審査制のNFTローンチパッドZaif INOを運営します。暗号資産決済のほか、クレジットカード決済に対応しクオリティの高いNFTを提供します。

カスタマーディベロップメント事業

暗号資産や金融業界をはじめとした様々な業界に適応可能な顧客対応事業です。ご相談いただいた業務内容に合わせて、高水準のカスタマーサポートチームを提供するほか、カスタマーとの友好的な関係構築を支援いたします。

暗号資産発行・運用事業

自社発行暗号資産カイクコインの運用を行います。ユーティリティの拡大に伴う暗号資産価格の上昇により当社の保有する資産価値の向上を図るとともに収益の最大化を図ります。



事業構造の抜本的な見直し

CAICA DIGITALは「デジタル金融の未来を切り拓く」というコーポレートミッションのもと、暗号資産交換所Zaifやカイカ証券をはじめ、様々な形態の金融サービス業を行ってまいりました。

しかし市場環境の変化など多くの要因により当初期待した収益を得られなかった結果、2023年10月期を以て事業譲渡や廃業により一部金融サービスの運営から退くことと致しました。

2024年10月期以降は従来より堅調であったITサービス事業を軸に赤字体質からの脱却、売上の拡大を目指し、業績の改善を図ってまいります。

また現在までに培ったノウハウを武器に引続き「デジタル金融の未来を切り拓く」というコーポレートミッションのもと、Zaif INOの運営やカイカコイン等のWeb3分野におけるサービスといった事業も継続してまいります。

代表メッセージ

当社は「デジタル金融の世界を切り拓く」というミッションを胸に、その実現に向けて挑戦を続けています。

長年にわたる金融システムの構築実績をベースに、ブロックチェーン技術や暗号資産交換所の運営を通して、私たちはデジタル金融の世界で一步先を行くパイオニアとしての挑戦を続けてきました。そして、2022年10月、私たちは新たな挑戦として、Web3事業への参入を果たしました。GameFiにおけるNFTのローンチパッド「Zaif INO」や、法人向けコンサルティング事業の「CAICA Web3 for Biz」の推進を通じて、未来への道を切り拓いています。

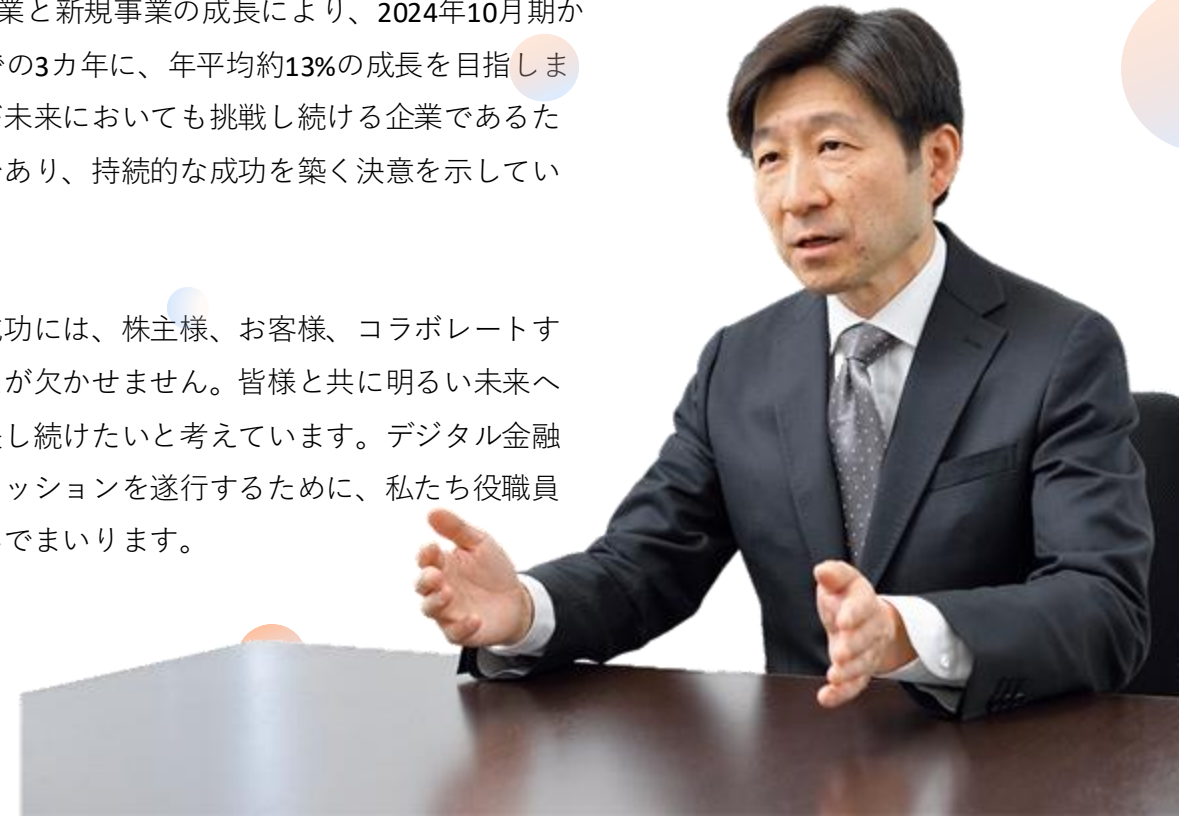
また、当社が発行するカイカコインは、上場企業が発行する希少な暗号資産であり、その価値を広めるために新たなビジョンを発表しました。「カイカコインをブロックチェーンにおけるゲームコインに！」を宣言し、ユーティリティの拡大と独自

サービスの創出に力を注いでいます。カイカコインはデジタル金融の未来を切り拓く重要なアイテムと位置付け、その可能性を最大限に引き出すために取り組んでいます。

そして、2023年10月に私たちは新たな中期経営計画を発表しました。ITサービス事業と新規事業の成長により、2024年10月期から2026年10月期までの3カ年に、年平均約13%の成長を目指します。これは、当社が未来においても挑戦し続ける企業であるためにも必達の計画であり、持続的な成功を築く決意を示しています。

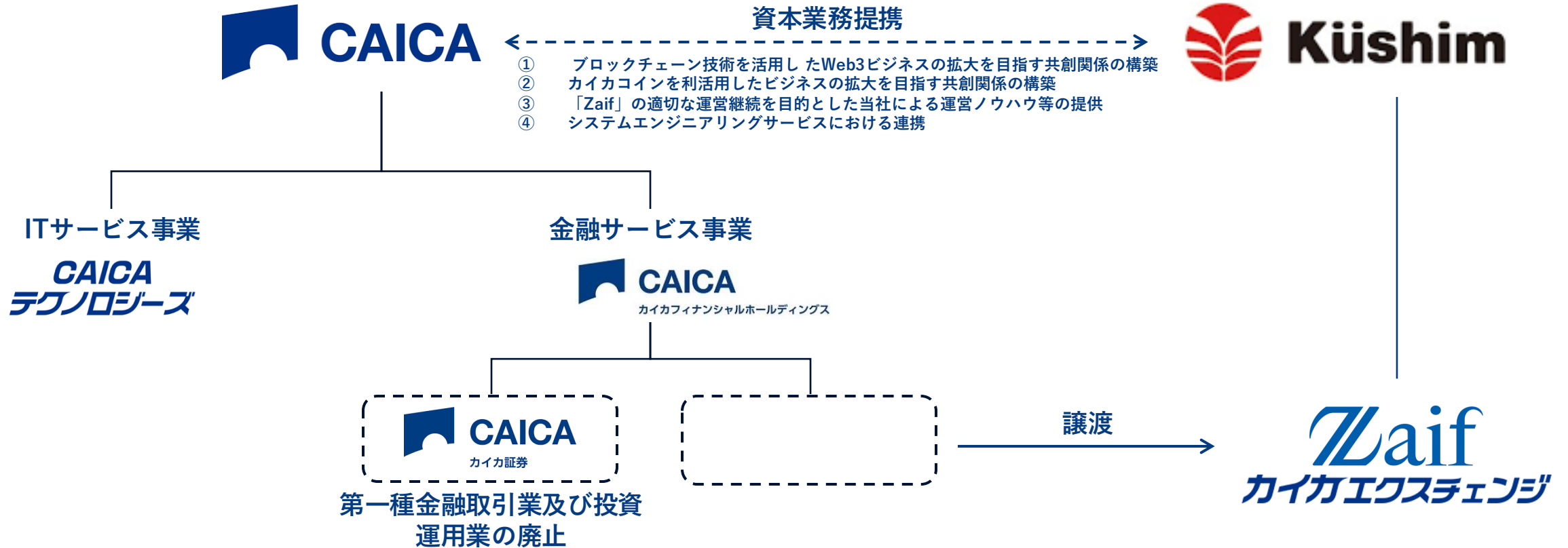
最後に、私たちの成功には、株主様、お客様、コラボレートする企業様のお力添えが欠かせません。皆様と共に明るい未来への旅を共有し、成長し続けたいと考えています。デジタル金融の未来を切り拓くミッションを遂行するために、私たち役職員は一丸となって進んでまいります。

CEO代表取締役社長 鈴木伸



金融子会社の再編と新たな資本業務提携

金融サービス事業の損失の主要因となっていた暗号資産交換所Zaifの運営を行う株式会社カイカエクスチェンジ^{※1}を株式会社クシム(2345)に対して2023年10月31日(2023年10月期末)付で譲渡しました。またカイカ証券株式会社^{※2}につきましても現在、第一種金融取引業及び投資運用業の廃止を致しました。一方、株式会社クシムより出資を受けることにより資本業務提携を締結しました。



1. カイカエクスチェンジホールディングス、カイカキャピタルも含まれます。
2. 関係会社 EWARRANT INTERNATIONAL LTD.、EWARRANT FUND LTD.の事業縮小も含まれます。

販管費削減に伴う収益体質の再構築

金融サービス事業のZaif譲渡及び、カイカ証券の廃業に伴い、2024年10月期以降、販管費約2,200百万円^{※1}が削減される予定です。

Zaifの譲渡、カイカ証券の第一種金融商品取引業廃止に伴う業績への影響に関して^{※2}

売上高	増加見込み ^{※3}
販管費	販売管理費約2,200百万円 ^{※1,4} を削減の予定
営業利益	販管費の削減に伴い、2024年10月期 ^{※5} より順次営業収支が正に転じる想定

販管費大幅削減の影響により、常態的に営業収支がプラスとなる体制を構築

- 2023年10月期の通期実績をもとに概算を表示。現在Zaifの譲渡及びカイカ証券の第一種金融取引業廃止に伴う会計処理を行っており、増減する可能性があります。
- カイカエクステンジホールディングス、カイカキャピタル、EWARRANT INTERNATIONAL LTD.、EWARRANT FUND LTD.を含みます。
- 2023年10月期に対して、Zaif及びカイカ証券が連結から外れることによる売上高の減少は軽微の見通しです。なお連結売上高にITサービス事業の金融サービス事業(主にZaif)に対するシステム開発が内部取引から外部顧客への売上高に振替えられるため連結売上高は増加の見込みです。また金融サービス事業のシステム開発からリソースを再分配することにより外部顧客からの売上高が増加する見込みです。
- (参考)2023年10月期の通期営業損失は2,378百万円です。
- 2024年10月期中までカイカ証券の第一種金融商品取引業の廃止に伴う支出は継続する見通しです。

01

概要

02

2024年10月期 第3四半期決算

03

2024年10月期 通期業績見通し

04

中期経営計画

05

トピックス

06

Appendix

連結業績予想の修正について

ITサービス事業における高収益案件獲得のための構造改革に伴う売上高の減少、及び金融サービス事業における暗号資産評価損を要因とした各利益への負の影響を主因として、2024年期初時点に想定した業績に到達しないと判断したため通期業績予想を修正します。

	24/3Q 累計実績	修正前 業績予想	修正後 業績予想	増減額	増減率
売上高	4,225	6,302	5,656	▲646	▲10.3%
売上総利益	423	-	-	-	-
売上総利益率	10.0%	-	-	-	-
営業利益	▲175	169	▲164	▲333	-
営業利益率	-	-	-	-	-
経常利益	▲301	162	▲292	▲454	-
親会社株主に 帰属する 当期純利益	▲402	137	▲397	▲534	-

※ 以降の頁における通期業績見通しの数字は修正後の数字を記載します。

2024年10月期 通期業績見通し修正の要因

連結業績

ITサービス事業

金融サービス事業

要因

- ITサービス事業における売上高の未達を主因として業績見通しを修正
- 金融サービス事業における各利益へのマイナス影響を主因として業績見通しを修正

- 利益率向上を目的とした高単価案件を選別を期初の想定以上に積極的行なった結果、売上高は未達予想
- 各利益は期初の計画通り進捗。かつ利益率は期初想定以上に向上

- 期初に想定していなかった暗号資産評価損を要因として各利益にマイナス影響
- 暗号資産評価損を除いた事業業績については売上、利益とも概ね期初の予想通り推移

今後の見通し

- 業績修正要因を消化した結果、今後ITサービス事業が牽引する形で業績拡大を見込む
- 備忘価格である1円に評価した暗号資産は今後、売却額が売上高に計上される

- 案件の選別の結果、今後は増収増益を見込む
- DX事業拡大に向けて営業体制強化、及び人員の配置転換を進めており、業績拡大を見込む

- 保有する暗号資産の大半を備忘価格である1円評価としたため今後は同要因による利益への影響は軽微
- 今後は保有暗号資産の売却額が売上高に計上される

保有暗号資産の表示変更・暗号資産評価額の切下げについて

従来まで暗号資産の評価損益⁽¹⁾は、売上高に計上されておりました。一方、第2四半期より、カイクコインなどの活発な市場が存在しない暗号資産は一部除いて評価額を備忘価格とし、その評価損は売上原価として計上しました。結果、売上総利益以下にマイナスを計上しました。

表示方法の変更について

	第1四半期まで
売上高	暗号資産の評価損は売上高以下に影響
	第2四半期以降
売上原価	暗号資産評価損を売上原価に計上
売上総利益	暗号資産の評価損は売上総利益以下に影響
営業利益	
経常利益	
当期純利益	

暗号資産評価額の切下げについて

暗号資産評価の切下げの大半は第2四半期までに行っており、下記の処理は第2四半期時点で実行済みです。

暗号資産評価額切下げ前

資産の部	約2,987百万円
暗号資産	約339百万円

暗号資産評価額切下げ後

資産の部	2,714百万円
暗号資産	66百万円

暗号資産273百万円分の評価を切下げ
差額を売上原価に計上

1. 従来、暗号資産の評価損は売上高にマイナス計上。一方、カイクコインをはじめとした活発な市場が存在しない暗号資産の評価益は損益計算書には反映せず

2024年10月期 第3四半期連結業績ハイライト

売上高

連結売上高**4,225**百万円

通期見通し 5,656百万円

営業利益

連結営業利益**▲175**百万円

通期見通し ▲164百万円

経常利益

連結経常利益**▲301**百万円

通期見通し ▲292百万円

純利益

連結純利益**▲402**百万円

通期見通し ▲397百万円

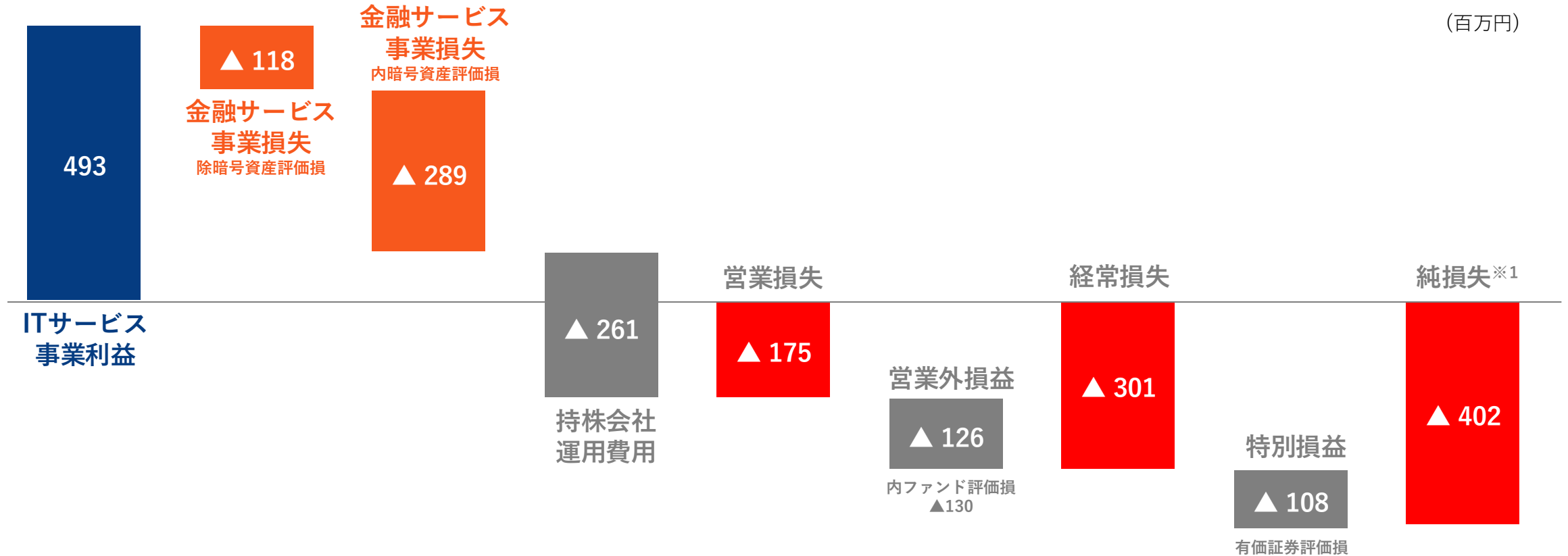
【累計期間】 2024年10月期第3四半期 連結業績サマリー

第3四半期までに保有する暗号資産の大半の評価額を備忘価格へ切下げたことや投資事業組合の運用損を主因として、各利益は累計でマイナスとなりました。一方、第3四半期連結累計期間において**営業活動によるキャッシュ・フローはITサービス事業が牽引する形で黒字**を継続しており、事業の健全性は保たれております。また金融サービス事業において事業再編を行なった結果、各利益は大きく改善しております。

	23/3Q 累計実績	24/3Q 累計実績	前期比	
売上高	4,190	4,225	+34	+0.83%
売上総利益	310	423	+112	+36.31%
売上総利益率	7.40%	10.02%	-	-
営業利益	▲1,937	▲175	+1,762	-
営業利益率	-	-	-	-
経常利益	▲2,091	▲301	+1,790	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	▲1,904	▲402	+1,501	-

累計期間における各利益の要因について

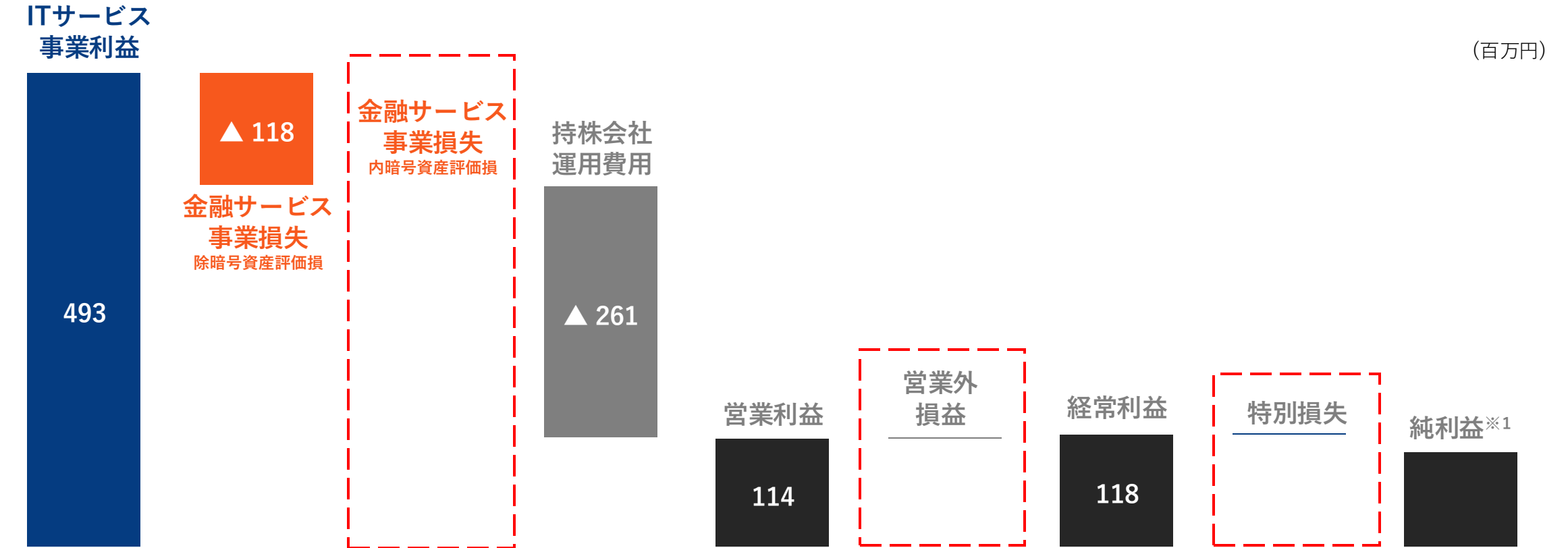
累計期間では第3四半期時点で、ITサービス事業の利益が493百万円に達しており、前期の282百万円と比較しても極めて好調に推移しております。一方、暗号資産に関連した評価損289百万円により、営業損失を計上しました。また第1四半期には保有するファンドを主因として経常損失、及び株式等の資産評価損により純損失を計上しました。なお、いずれもキャッシュアウトを伴わない損失でした。



1. 親会社株主に帰属する四半期純損失を記載

累計期間において各種評価損がなかった場合

累計期間において、暗号資産評価損及び、ファンドの損失等の営業外損益、有価証券評価損等の特別損失が計上されなかった場合の損益計算書の概算シミュレーションは下記のとおりです。来期以降は、堅実な黒字化体制を確立してまいります。



1. 法人税などを加味して親会社株主に帰属する四半期純利益の概算値を記載。

【四半期間】 2024年10月期第3四半期 連結業績サマリー

四半期の業績は下記のとおりです。当第3四半期はITサービス事業における案件の精査や金融サービス事業における不採算事業撤退の結果、前四半期と比較して売上高が減少しました。一方、金融サービス事業において暗号資産評価損として16百万円を計上したものの、ITサービス事業は高い利益率を実現し着実に利益に貢献した結果、2022年10月期第2四半期以来の黒字を達成しました。

	23/3Q 四半期実績	24/3Q 四半期実績	前期比	
売上高	1,466	1,359	▲106	▲7.27%
売上総利益	207	216	+9	+4.72%
売上総利益率	6.02%	15.96%	-	-
営業利益	▲540	21	+561	-
営業利益率	-	1.56%	-	-
経常利益	▲557	18	+576	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	▲553	23	+576	-

2024年10月期 第3四半期連結業績総括

連結業績

- 第3四半期会計期間において各利益とも黒字を達成

ITサービス事業

- 案件の選別により一時的に売上高は減少したものの利益水準は維持

金融サービス事業

- 保有暗号資産の評価損及び事業への先行投資のため損失を計上

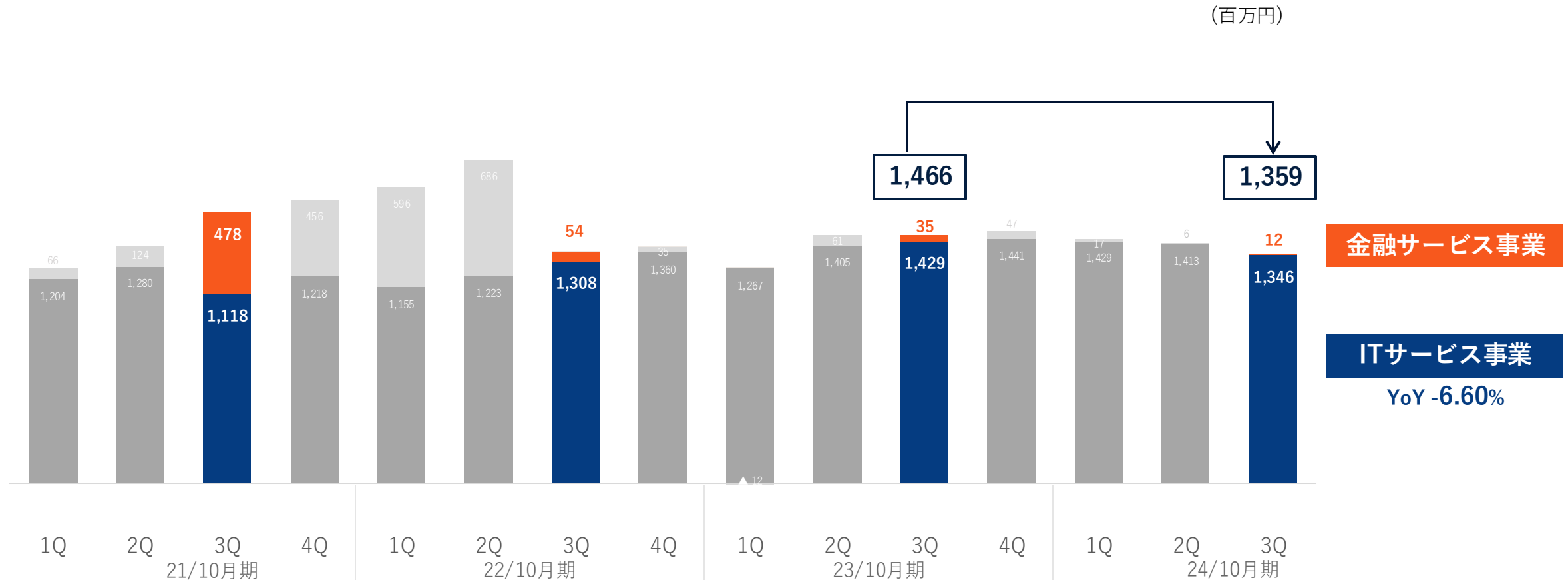
保有する暗号資産スケブコイン^{※1}の評価損により▲16百万円を売上総利益以下に計上。

1. 第2四半期時点ではスケブコインは上場直後で流動性等々の観点からの評価ができず、備忘価格としなかったため、時価評価として貸借対照表に記載されておりました。なお、引き続きスケブコインは時価で貸借対照表に記載されております。

四半期毎の連結売上高推移※1

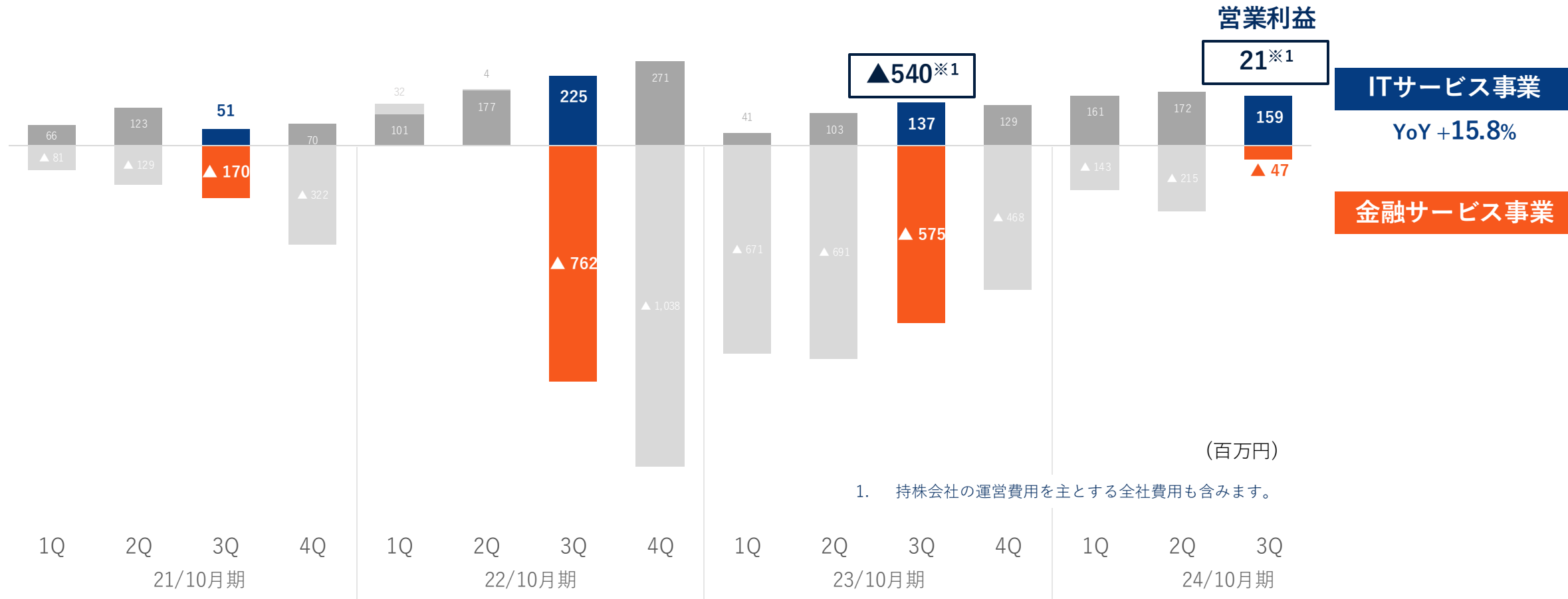
ITサービス事業の売上高減を主因として連結売上高は前期比7.95%減となりました。金融サービス事業においては再編に伴い一部子会社を譲渡したことを主因として前期比で売上高が減少しました。今後ITサービス事業が牽引する形での業績拡大を見込んでおります。

1. 内部取引控除後、金融サービス事業における暗号資産評価変更後の数字を記載



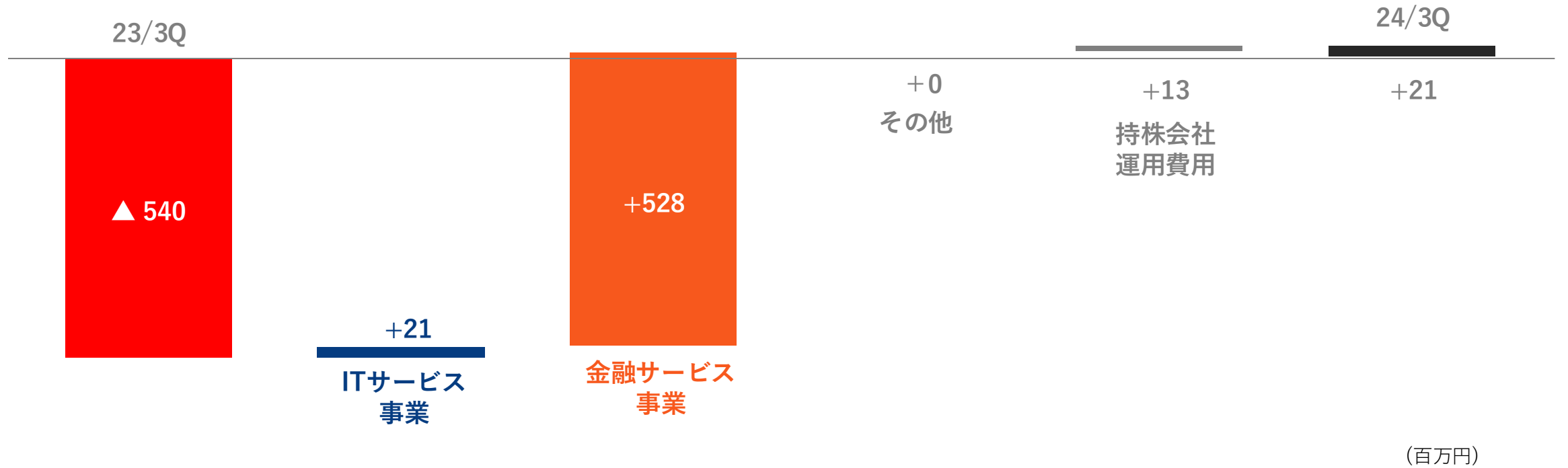
四半期毎のセグメント損益の推移

第1,2四半期とも連結営業利益は暗号資産評価の切り下げを主因としてマイナスであった一方、当第3四半期は同要因による業績へのマイナスの影響が、軽微であったことを主因として**連結営業利益はプラス**へと転じました。



四半期営業利益の増減要因について

ITサービス事業は第1,2四半期に引続き高い利益率を維持した結果21百万円増となりました。金融サービス事業は第1,2四半期と比較して暗号資産評価額の切り下げが軽微であったことと併せて、不採算事業撤退の影響により528百万円増となりました。以上より、2023年10月期第3四半期と比較して営業利益は約561百万円増と大きく改善しました。

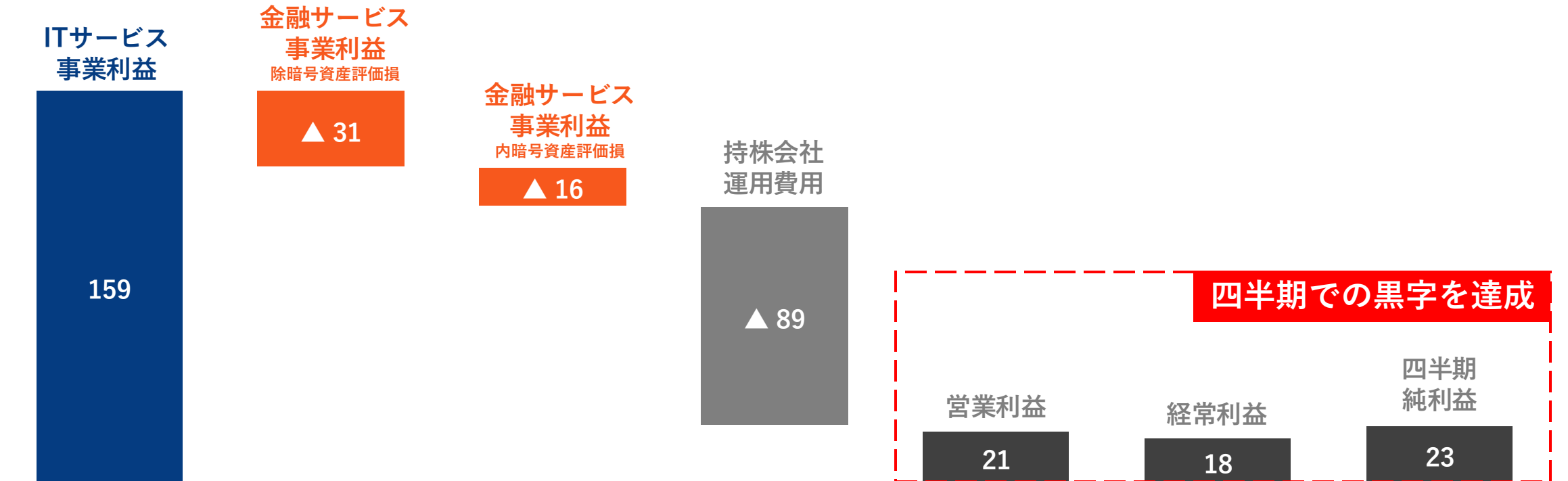


四半期⁽¹⁾における各利益の要因について

当第3四半期は暗号資産評価損による業績への影響が第1,2四半期と比較して軽微であったことなどを要因として、**各利益ともプラス**の着地となりました。

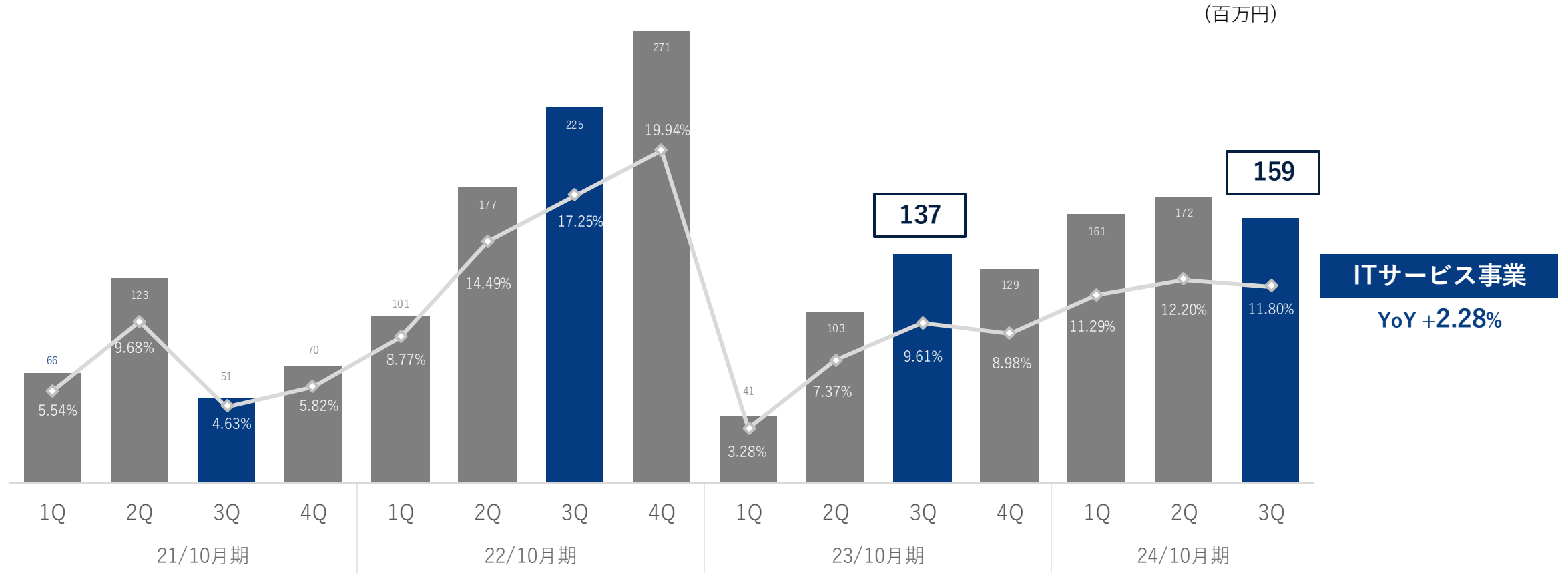
1. 2024年10月期第3四半期会計期間(5月1日~7月31日)の状況を記載

(百万円)



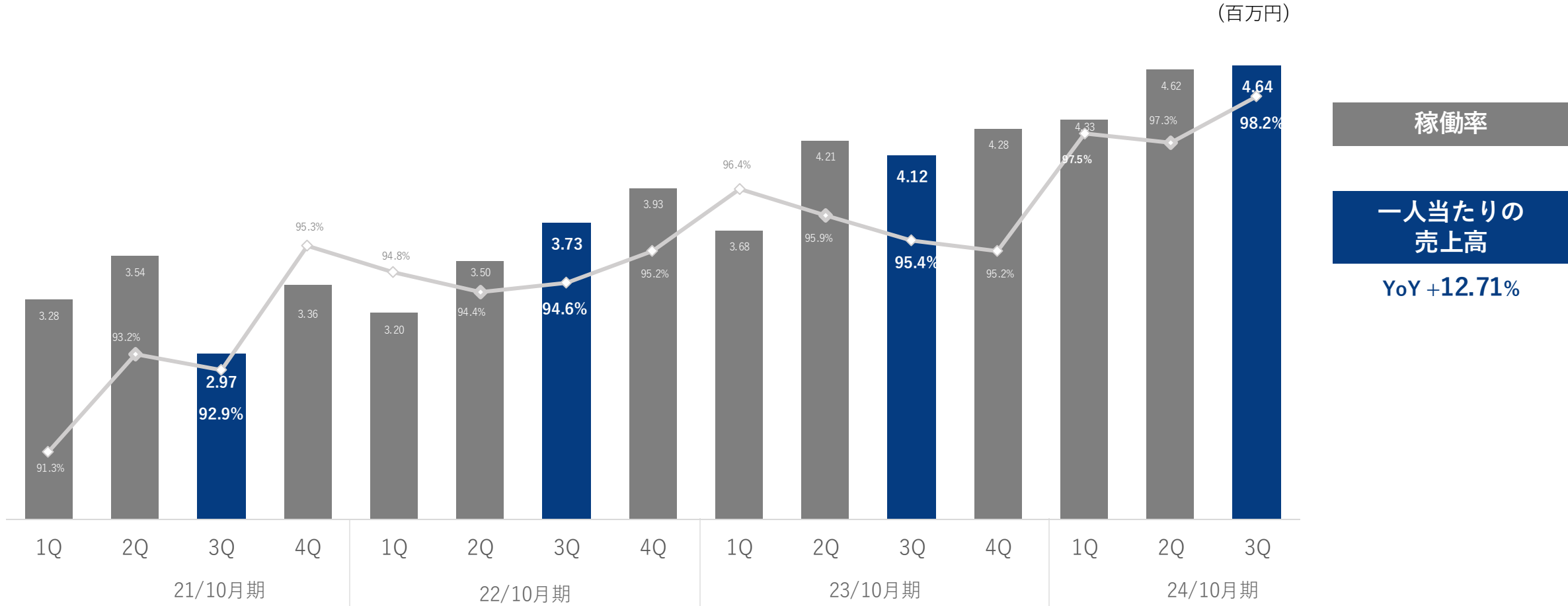
四半期毎のITサービス事業の営業利益率推移

第1,2四半期に引続き高収益案件の獲得に努めた結果、引続き高い利益率を維持しており前期比21百万円増、利益率2.28%向上となりました。



四半期毎のITサービス事業KPIの推移

第1,2四半期に引き続き、ITサービス事業の一人当たりの売上高、稼働率ともに順調に伸長しました。新規事業であるDXソリューション事業の拡大に伴い、案件単価の向上を図ることでさらに一人当たりの売上高をさらに拡大させたいと考えております。



貸借対照表の推移について

前期末より暗号資産の評価方法見直しなどを要因としてBSは縮小いたしました。なお、自己資本比率は67.4%と引続き高水準を保っております。

(百万円)	23/3Q	23/4Q	24/3Q		23/3Q	23/4Q	24/3Q
資産の部	47,224	2,971	2,571	負債の部	42,716	773	833
内 現預金	2,120	1,049	785	内 預り暗号資産	34,017	-	-
内 利用者暗号資産	34,017	-	-				
				純資産の部	4,508	2,198	1,737
				内 株主資本	4,228	2,169	1,765

01

概要

02

2024年10月期 第3四半期決算

03

2024年10月期 通期業績見通し

04

中期経営計画

05

トピックス

06

Appendix

2024年10月期 通期業績見通しハイライト

売上高

連結売上高**5,656**百万円

前期実績 5,679百万円

営業利益

連結営業利益**▲164**百万円

前期実績 ▲2,378百万円

経常利益

連結経常利益**▲292**百万円

前期実績 ▲2,560百万円

純利益

連結純利益**▲397**百万円

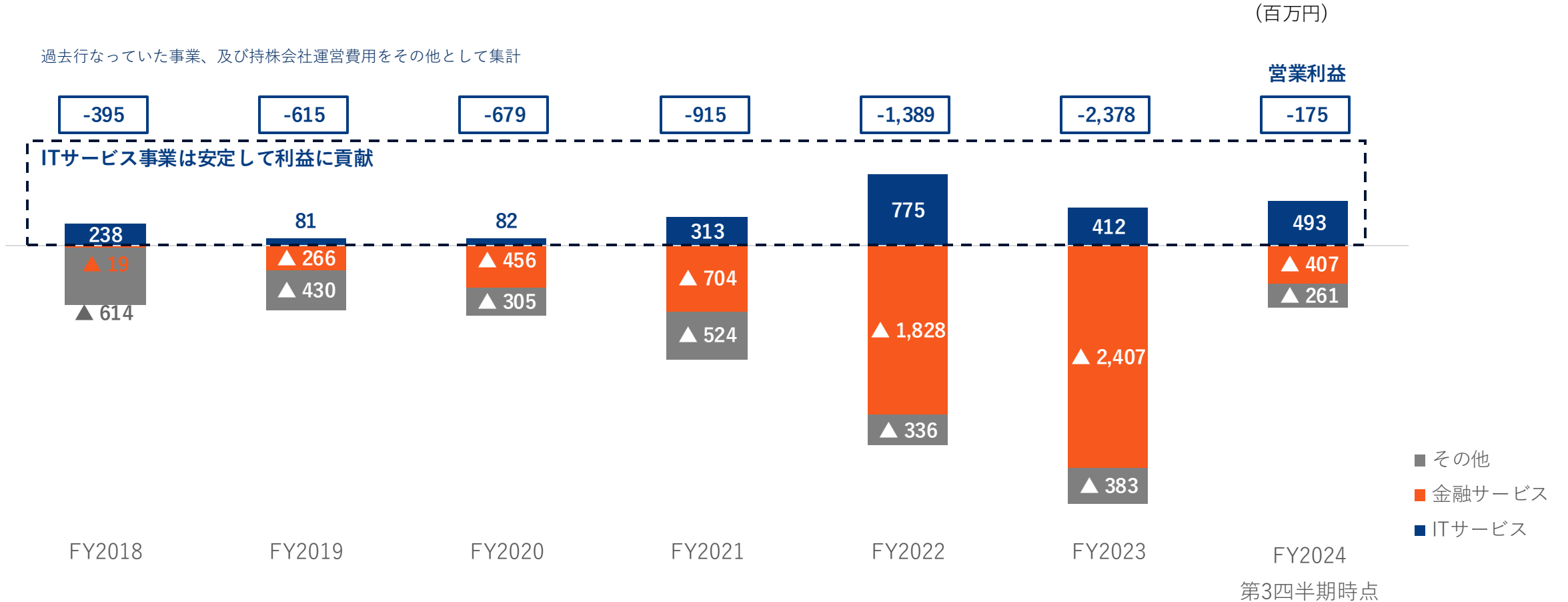
前期実績 ▲3,889百万円

2024年10月期 通期業績見通しサマリー

	23/10月期 実績	24/10月期 業績見通し	前期比	
売上高	5,679	5,656	-23	-0.42%
営業利益	▲2,378	▲164	+2,214	-
営業利益率	-	-	-	-
経常利益	▲2,560	▲292	+2,268	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	▲3,889	▲397	+3,492	-

2018年10月期以降のセグメントごとの通期損益の推移

2023年10月期まではITサービス事業は堅調であった一方、金融サービス事業への先行投資が負荷となっておりました。再編に伴い、2024年10月期は大きく収支を改善致しましたが、当第3四半期連結累計期間においては暗号資産の評価額切下げ等の要因により損失を計上しております。



01

概要

02

2024年10月期 第3四半期決算

03

2024年10月期 通期業績見通し

04

中期経営計画

05

トピックス

06

Appendix

中期経営計画ハイライト

2026年10月期
連結売上高**7,813**百万円

CAGR13%
FY2023年実績比+44.6% ※1

2026年10月期
連結営業利益**467**百万円

営業利益率6.0%

2026年10月期
ITサービス事業人員**725**人 ※2

一人当たりの売上+8.5%
FY2023年比+8.5%

販売管理費約**2,200**百万円減 ※3

1. 2023年10月16日に公表したものであり、2024年第2四半期に変更した活発な市場が存在しない暗号資産の評価損の表示方法の変更による影響は反映しておりません。
2. パートナー人員数を含みます。
3. 2023年10月期の通期実績をもとに算出しております。現在カイクエストチェンジホールディングス、カイクエストチェンジ、カイクエストキャピタルの譲渡、及びカイクエスト証券の第一種金融取引業廃止に伴う会計処理を行っており、増減する可能性があります。

中期経営計画サマリー

CAICA DIGITALは2023年10月期に事業再編を行い、長期的な成長を見据えて収益体制を再構築してまいります。その一環として3ヵ年業績計画を中期経営計画として開示致します。

「デジタル金融の未来を切り拓く」のスローガンのもと、複数の金融子会社をM&Aにより取得するが、暗号資産市場の低迷や関連規制の強化など、様々な要因により当初想定した利益が得られず

2018年10月期~2023年10月期

安定的に利益を計上していたITサービス事業の伸長を図るとともに
金融サービス事業における収支の状況を抜本的に見直し、事業の集中と選択を図る

2023年10月期

ITサービス事業の伸長を図りつつ、金融サービス事業の運営経験を活かしたWeb3事業を展開

2023年10月期~2026年10月期

新体制の事業構造と資本業務提携

今後も「デジタル金融の未来を切り拓く」というコーポレートミッションのもと、Web3領域を中心に引続き金融サービス事業の展開を図ってまいります。また株式会社クシムとの資本業務提携の元、引続き暗号資産交換所Zaifとの密な協業を図ってまいります。



新しいCAICA DIGITALの体制図

CAICA DIGITALは安定したキャッシュフローを産むITサービス事業を基盤として、「デジタル金融の世界を切り拓く」というミッションのもと、更なるWeb3事業の拡大を図ります。またWeb3コンサル事業「CAICA Web3 for Biz」より、上流工程のSI案件を獲得することにより、ITサービス事業の収益性向上を図ります。

金融サービス事業



自社サービスの知見を活かしたコンサルティング事業

CAICA Web3 For Biz

ITサービス事業

安定したキャッシュフローを産むSI事業

CAICA テクノロジーズ

上流工程を獲得し収益拡大のために
スクラム体制を構築

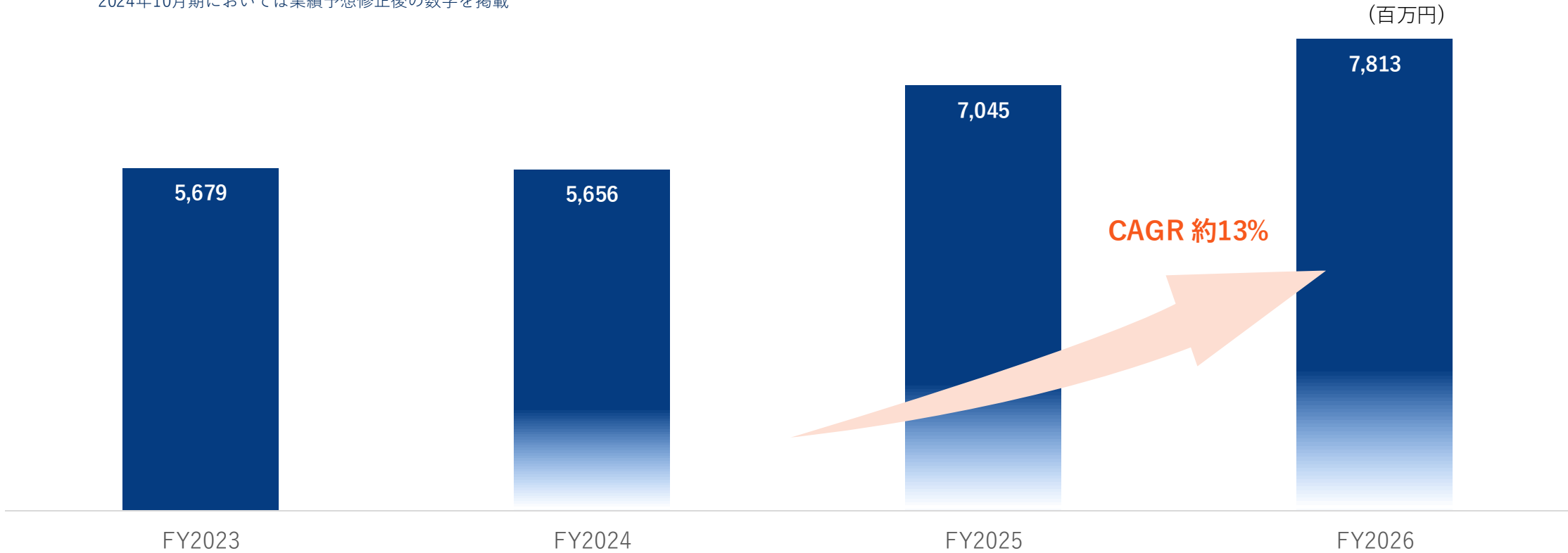
CAICA Web3 For Bizで生じたニーズをSI事業で網羅

M&A活用による更なる事業拡大

連結売上高見通し⁽¹⁾

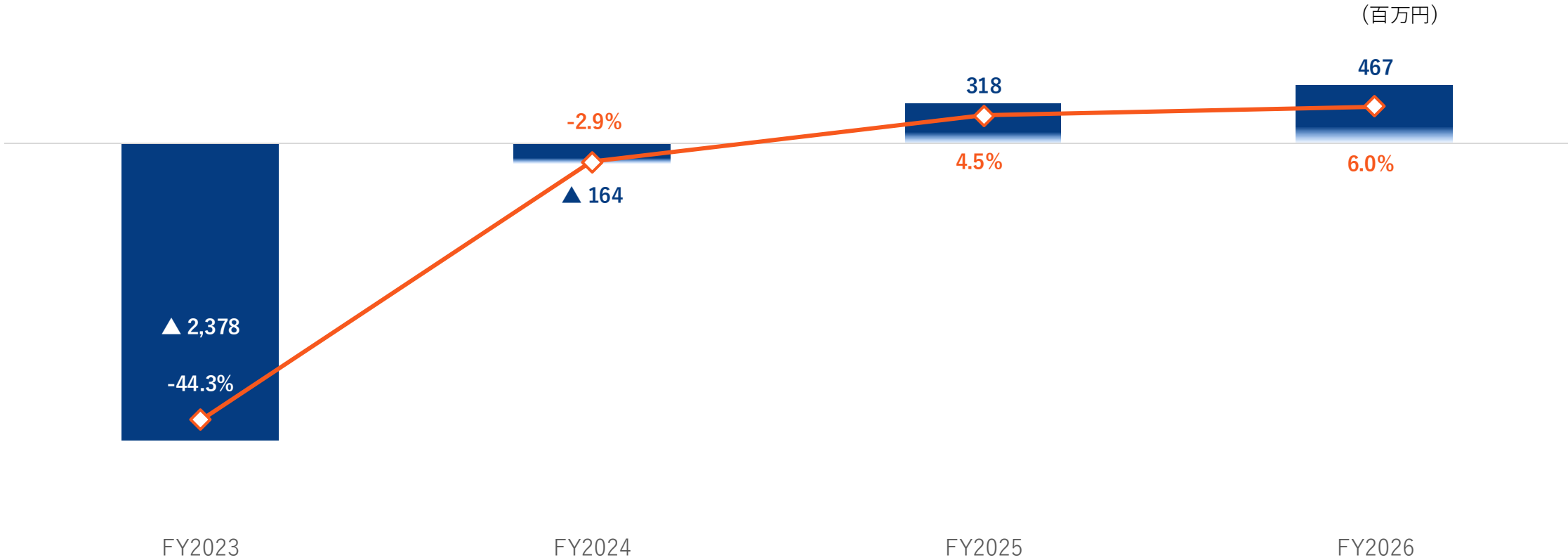
ITサービス事業、及び新規事業の伸長により2023年10月期～2026年10月期の間に年平均約13%の成長を目指します。

- 2023年10月16日に開示した中期経営計画の数字を掲載
2023年10月期は暗号資産の表示方法変更に伴い遡及処理
2024年10月期においては業績予想修正後の数字を掲載



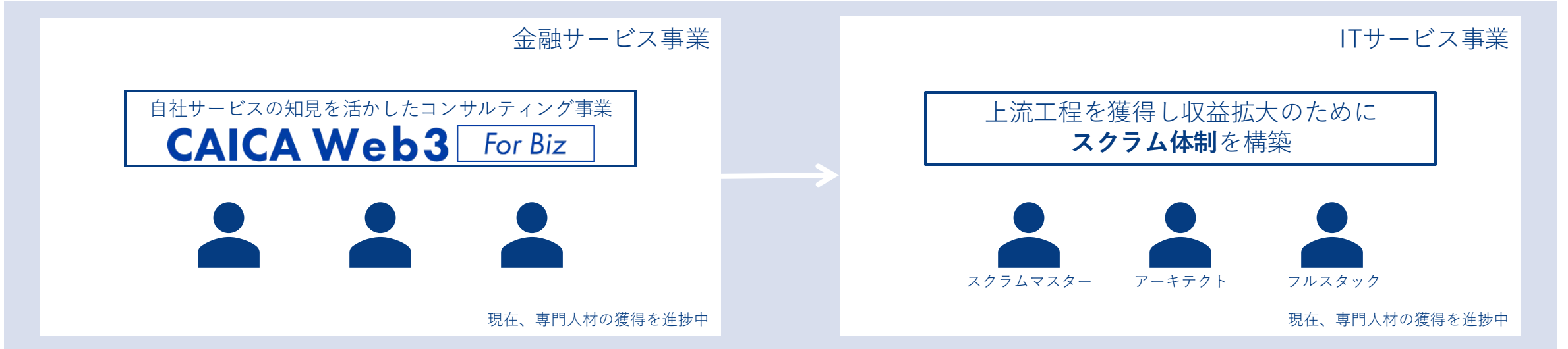
連結営業利益及び営業利益率の推移

2023年10月期は金融サービス事業が要因となり営業損失は▲2,378百万円となりました。また2024年10月期中も事業の選択と集中に伴うコストが一部計上される見通しであります。2025年10月期より収益化フェーズとなり以降、段階的に収支が改善される見通しです。



IT×Web3により高単価案件を獲得

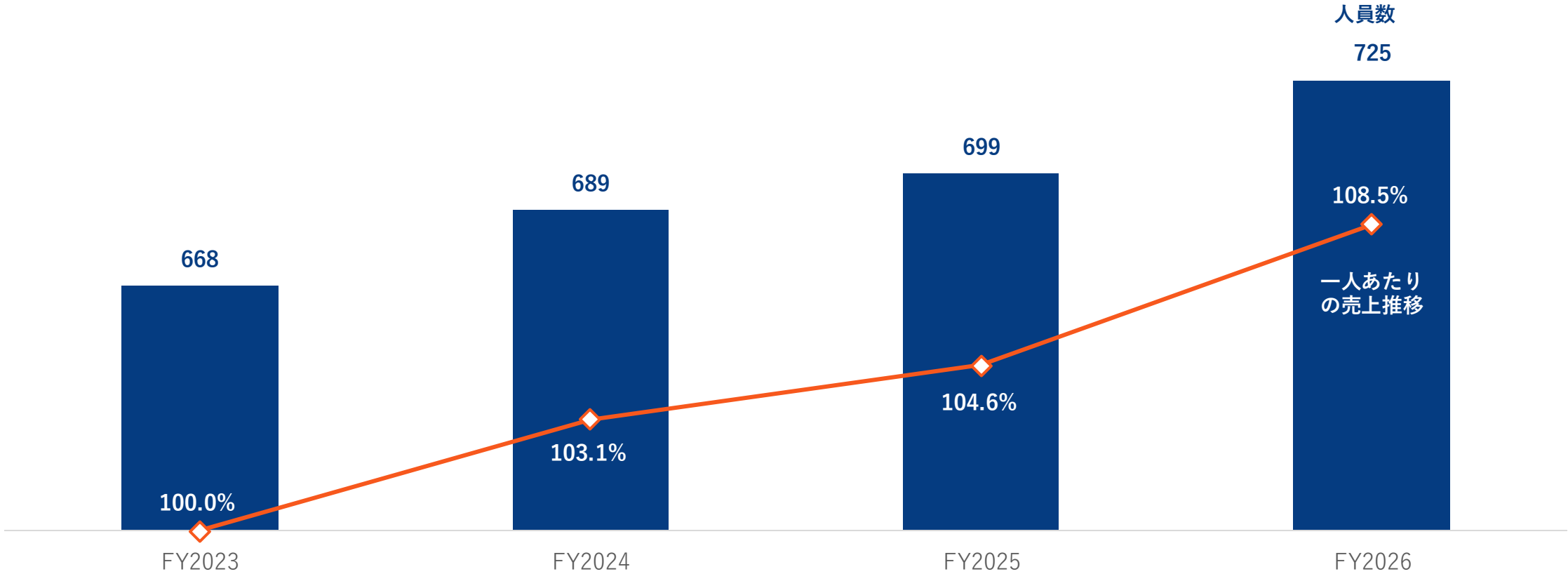
金融サービス事業で培った知見を活かし、ITサービス事業においてもWeb3領域の高単価案件の獲得を目指し利益率の改善を図り、最終年度の2026年10月期には営業利益率を6.0%まで向上させる見込みです。そのための手段として、2024年10月期よりコンサル人材、及びハイスペックなエンジニアの採用を進め、専門チームを組成します。



高単価案件を獲得し、将来的に**連結営業利益率6.0%**を目指す

ITサービス事業の人員※¹及び人員あたりの売上計画

ITサービス事業では人員の純増と併せて、一人当たりの売上増加を図りセグメント売上の伸長を図ってまいります。2026年10月期までに人員は57人純増の予定であり、一人当たりの売上は8.5%増加する想定です。



1. パートナー人員数を含みます。

01

概要

02

2024年10月期 第3四半期決算

03

2024年10月期 通期業績見通し

04

中期経営計画

05

トピックス

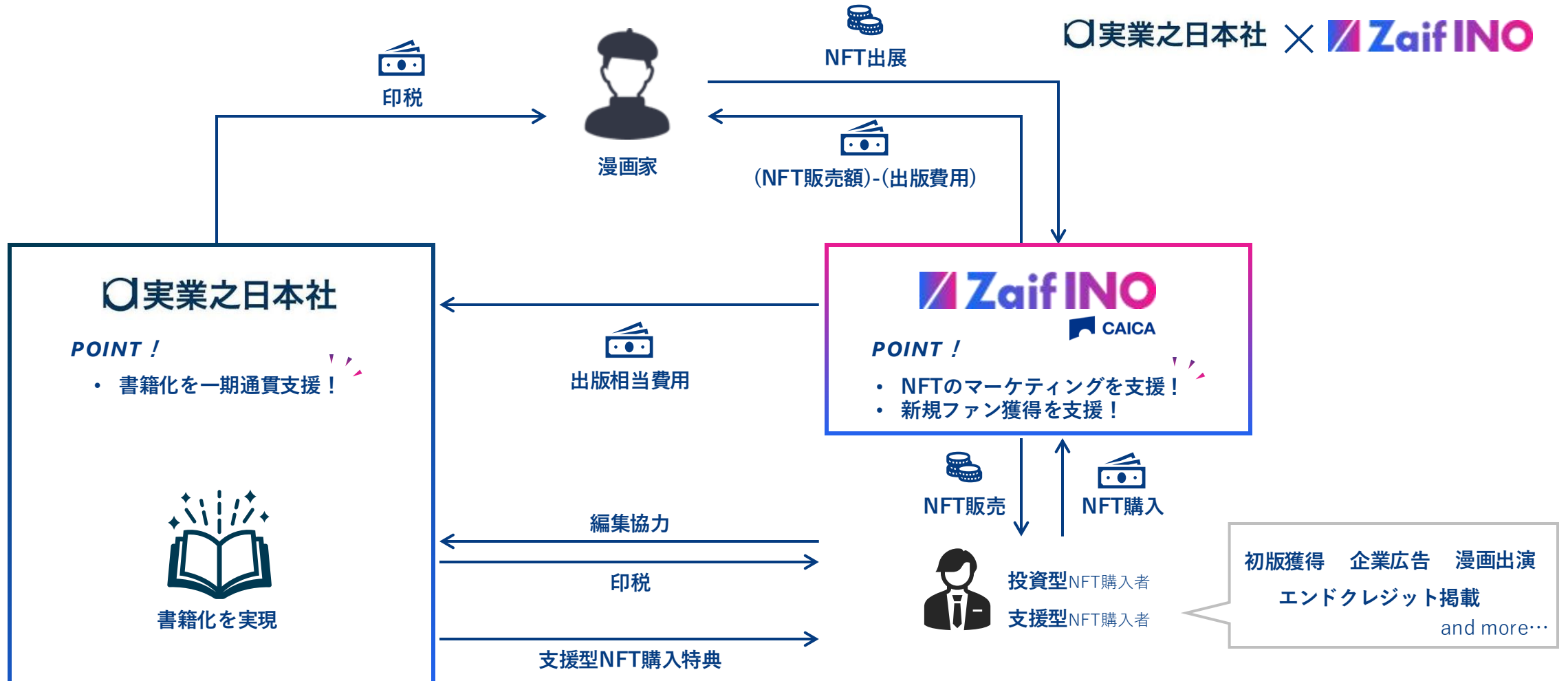
06

Appendix



NFTカードを活用した「NFT漫画プロジェクト」始動！

Zaif INOと実業之日本社が協業し、NFTを通じて漫画家さんの出版活動を応援する「NFT漫画プロジェクト」を開始しました。支援型漫画NFTと投資型漫画NFTの2種類のNFTを販売し、NFT出版、電子出版、紙書籍出版の3つのスタイルで出版を目指します。Zaif INOから、暗号資産不要・ウォレット不要でNFTが所有できる「NFTカード」形式で販売します。



DX対応の加速：HCL Technologies社と基本再販業者プログラム契約を締結

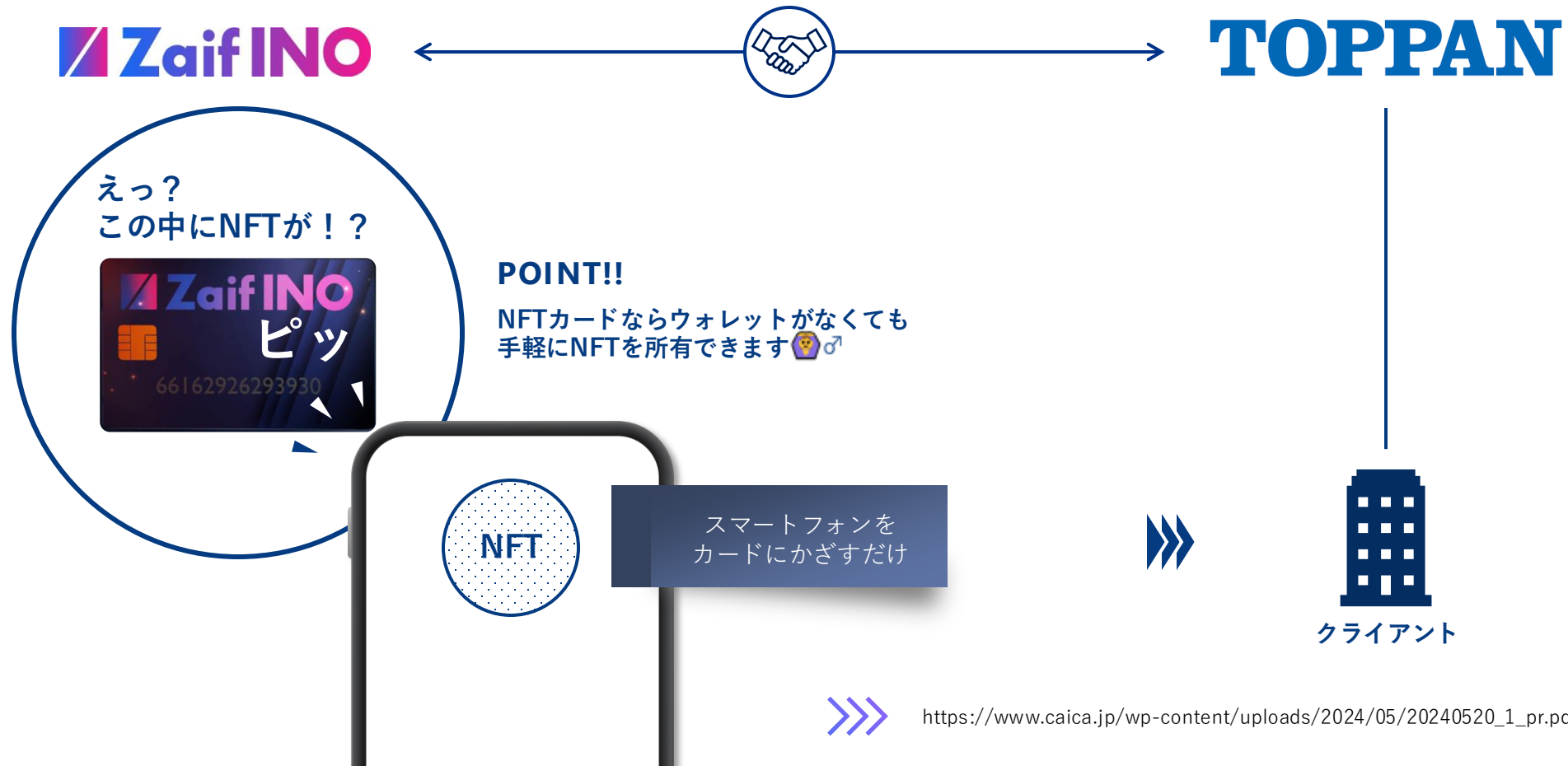
当社は予めよりHCL Technologies社とパートナー契約を締結しておりましたが、2024年8月、同契約が基本再販業者プログラムへと昇格しました。これによりディストリビューターを経由せずにHCL Technologies社のDXソリューション製品を販売可能となりました。コンサルティングから製品導入、保守運用まで、DXニーズへの対応を加速する体制が整い、事業拡大を進めてまいります。



SESからSIへの転換を図り利益率の大幅な向上を狙う

Web3領域におけるNFT活用連携、サービス/プロダクト共同開発推進の進捗状況

プレスリリース「CAICA DIGITALとTOPPAN、Web3 領域におけるNFT活用で連携」の通り当社グループの運営するZaif INOはTOPPANと代理店契約を締結しております。その後、TOPPANのクライアントに対してNFCタグ機能を活用したNFT配布サービスを提供致しました。NFC タグ機能の活用により、Web3ウォレットを所有していないユーザーに対してNFT付与が可能となります。



カイカコイン外国語版ウェブサイト開設

カイカコインの評価を備忘価格といたしましたでしたが、当社は引き続きカイカコインを重要な営業資産として位置付け、今後もユーティリティの拡大や投資家の獲得に努めてまいります。直近では英語、韓国語のウェブサイトを新規に開設いたしました。今後もカイカコインの価値向上を目的として、様々な施策に取り組んでまいります。

한국어KR



<https://cicc.caica.jp/cicc/kr/>

ENGLISHHus



<https://www.caica.jp/cicc/en/>

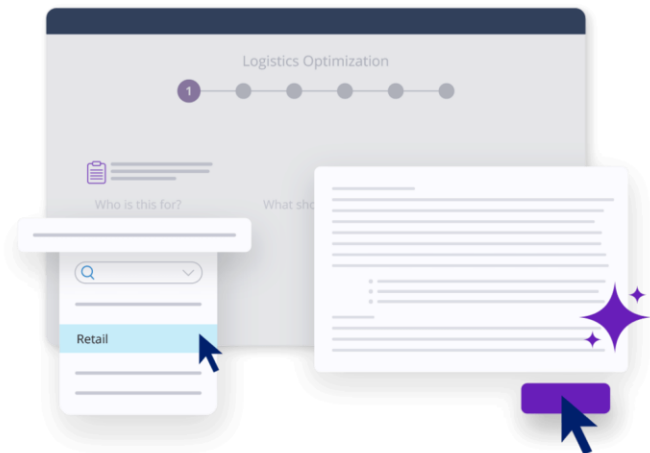


https://www.caica.jp/wp-content/uploads/2024/05/20240523_1_pr.pdf

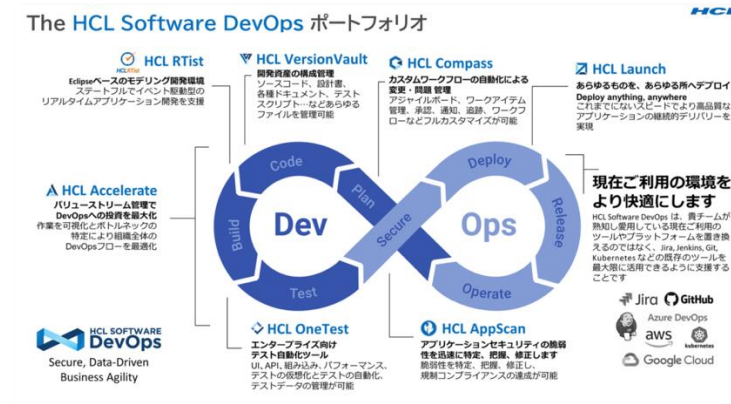
https://www.caica.jp/wp-content/uploads/2024/05/20240513_1_pr.pdf

HCL Softwareのパートナーに認定、Pegasystemsとパートナーシップ契約締結

ITサービス事業においてクライアントのDX加速を目的として、HCLSoftware社のパートナーに認定されました。またPegasystemsとパートナーシップ契約を締結しました。これにより当社グループは、コンサルティングからソリューション導入、運用保守までをワンストップで提供することが可能となりました。



<https://www.pega.com/ja>



<https://www.hcljapan.co.jp/software/>



https://www.caica.jp/wp-content/uploads/2024/04/20240423_1_pr.pdf

https://www.caica.jp/wp-content/uploads/2024/01/20240104_1_oshirase.pdf

株式会社フィスコの株式取得について

当社グループは株式会社フィスコ(3807)の株式を追加取得致しました。これにより同社のパイプラインを活かした当社の営業活動の拡大を狙います。また同社の企業価値が向上した際には株式売却によるキャピタルゲインの獲得を狙います。

取得の状況

取得前	保有株数	保有割合	
	994,500(株)	2.17(%)	
↓			
取得概要	取得株数	取得価格	取得総額
	5,000,000(株)	118(円)	590(百万円)
↓			
取得後	保有株数	保有割合	
	5,994,500(株)	13.09(%)	

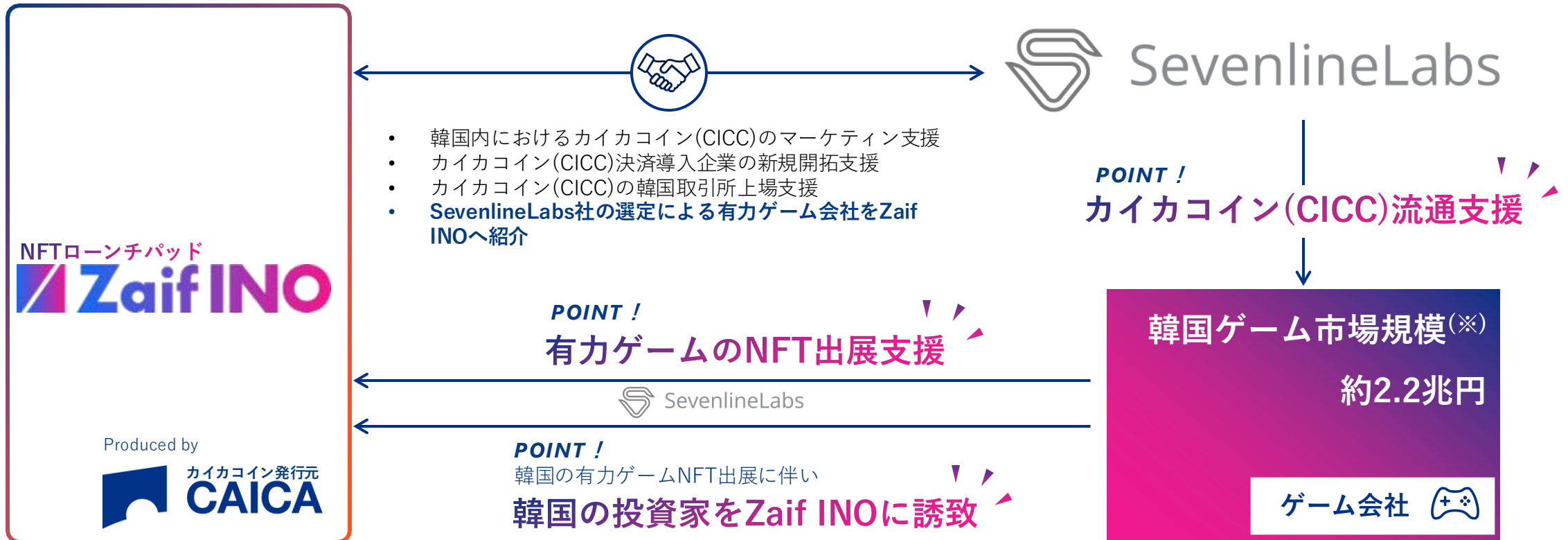
FISCOの経営成績

決算期	21年12月期 (連結)	22年12月期 (連結)	23年12月期 (単体)
純資産	3,624	2,063	289
総資産	5,383	3,826	2,093
売上高	1,156	1,071	450
営業利益	130	46	▲622
経常利益	239	73	▲537
当期純利益	3,801	▲2,750	▲1,591



SevenlineLabsとの事業提携により韓国市場を開拓

韓国ソウルのSevenlineLabsとの事業提携により韓国暗号資産市場の開拓を開始いたしました。これにより当社の発行するカイカコインのユーティリティ向上を図るほか、ZaifINOの発展を目指します。



- カイカコイン(CICC)によるNFT購入連携!
- カイカコイン(CICC)決済による特典付与連携!

※ 参照 <https://x.gd/rYoTY>



https://www.caica.jp/wp-content/uploads/2024/02/20240229_1_oshirase.pdf

カイクォインで購入可能なNFT第一弾「Zaif INOデジタルプレミアムチケット」販売

カイクォイン山分け企画の参加権、今後販売を予定しているオリジナルNFTプレセールAL確定枠権、オリジナルNFT先行情報取得権、ホルダー限定コミュニティ参加権等、様々な権利を内包するZaif INOオリジナルNFT、Zaif INOデジタルプレミアムチケットの販売を決定しました。



The graphic features a dark blue background with a glowing purple and blue 'Zaif INO' logo and a stylized credit card with the number '66162926293930'. The text is in white and purple.

デジタルプレミアムチケット 第三弾!!

- 👑 コイン山分け企画参加権
- 👑 オリジナルNFT AL確定枠
- 👑 NFT山分け企画参加権

発行枚数	200枚
販売価格	100 MATIC 2,000 CICC

※内容は予告なく変わる可能性があります。



Zaif INOのカイカコイン決済機能実装完了

「Zaif INO」においてカイカコインによる決済機能を実装し、カイカコインでNFTを購入することができるようになりました。またカイカコインを用いて購入した場合、ディスカウントなどの様々な特典が適応されます。



①作品出展

Zaif

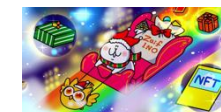
© CAICA COIN 購入



© CAICA COIN 決済

③NFT

Zaif INO



②作品の販売



2023年11月6日、11月28日リリース

Zaif INO取扱NFT拡充

Zaif INOにて、『DUO NFT』コラボコレクション「DUO Collab Collection BITCONUSI ver.」及び、賞金付きバトロワレースゲーム Climbers（クライマーズ）のランドNFT第二弾のNFTの販売を開始しました。引続きGameFi関連をはじめとした各種NFTの取扱いを拡充し、Zaif INOの取扱高向上を図ることで、Web3業界のパイオニアとして拡大してまいります。

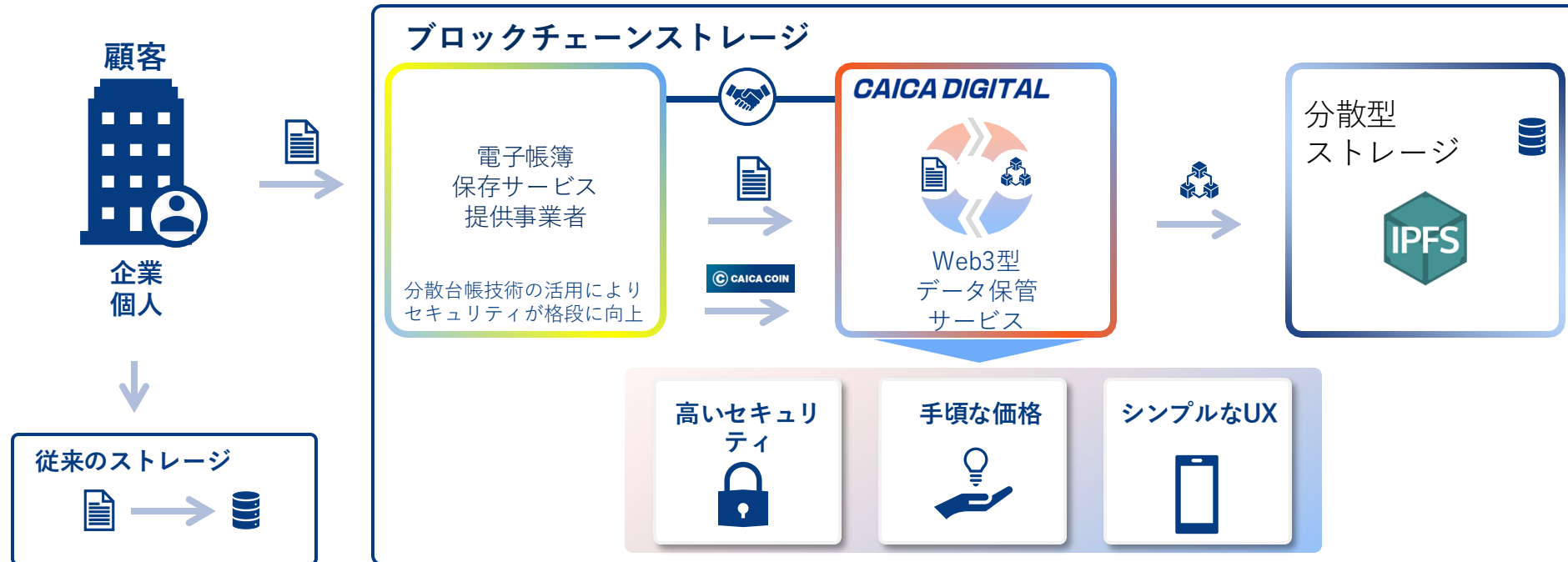


https://www.caica.jp/wpcontent/uploads/2023/11/20231106_1_oshirase.pdf

https://www.caica.jp/wpcontent/uploads/2023/11/20231128_1_oshirase.pdf

カイカコインを活用したWeb3型のデータ保管サービスを提供開始

B to B決済に当社の発行するカイカコインが利用される事例として、カイカコイン、及びブロックチェーンの分散型ストレージ技術を活用し、改ざん不可能かつ永続的な運用が可能な電子帳簿保存サービスを開始しました。



2023年9月25日

カイカコインに関するお知らせ

カイカコインは多様な施策によりユースケースを拡大し、実需を増加させることで資産価値の向上を図ります。定期的にホワイトペーパー及び、ライトペーパーを開示することで資産の信用を向上させます。



ライトペーパー最新版公開



https://www.caica.jp/wp-content/uploads/2023/01/20230106_2_oshirase.pdf

「CAICA Security Training/標的型メール訓練サービス」の販売を強化

サイバー攻撃の手口が多様化する中で標的メールの開封を未然に防ぐための従業員リテラシー向上プログラムの引き合いを多数いただきました。特設ページ開設や営業強化、販売パートナーの開拓などにより、今後更なる事業拡大を図ってまいります。



01 訓練メール送信

03 開封状況分析

04 教育コンテンツ作成

06 報告書作成



クライアント

02 訓練メール受信

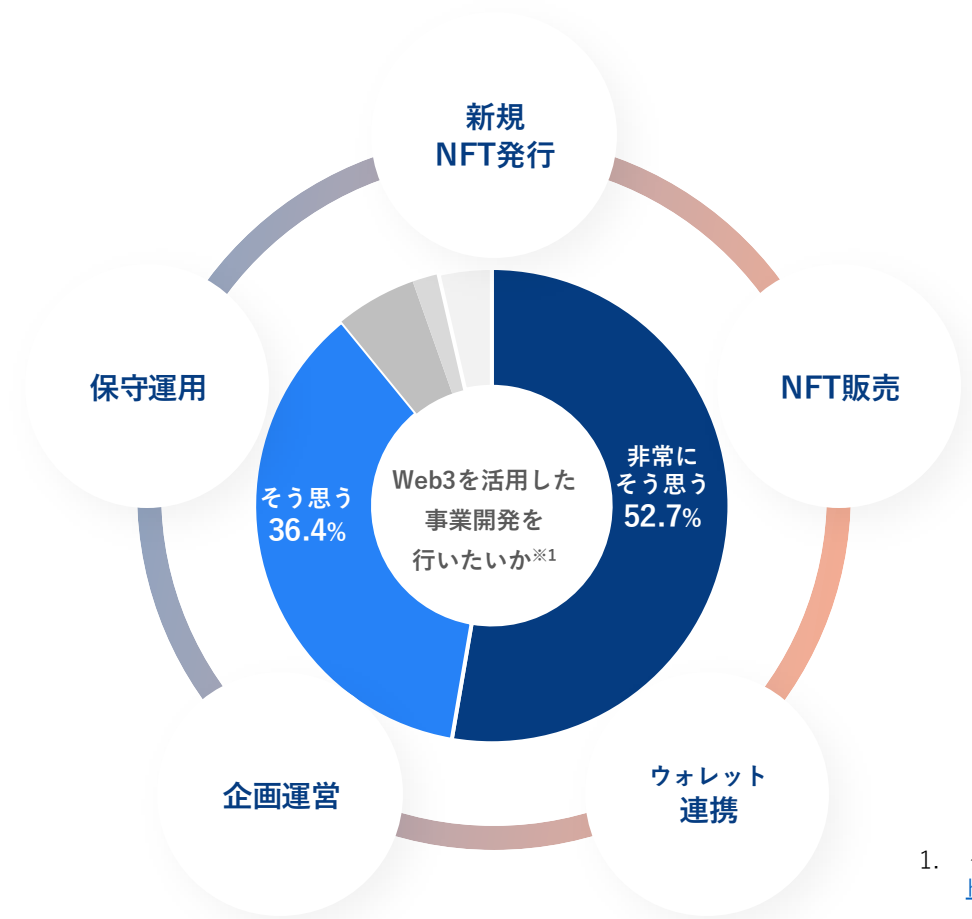
05 社員教育実施

07 改善活動実施



Web3参入を支援する セミオーダー型NFTマーケットプレイス開発サービスを販売開始

ブロックチェーンゲーム専門のNFTローンチパッド「Zaif INO」、暗号資産交換所「Zaif」の運営ノウハウを活かし、セミオーダー型NFTマーケットプレイス開発サービス提供を開始しました。関心の高いWeb3領域におけるコンサルティング事業の拡大を図ります。



1. クラウドエース株式会社「Web3.0に関する意識調査」を参照
<https://www.softbanktech.co.jp/corp/hr/recruit/articles/10/>



01

概要

02

2024年10月期 第2四半期決算

03

2024年10月期 通期業績見通し

04

中期経営計画

05

トピックス

06

Appendix

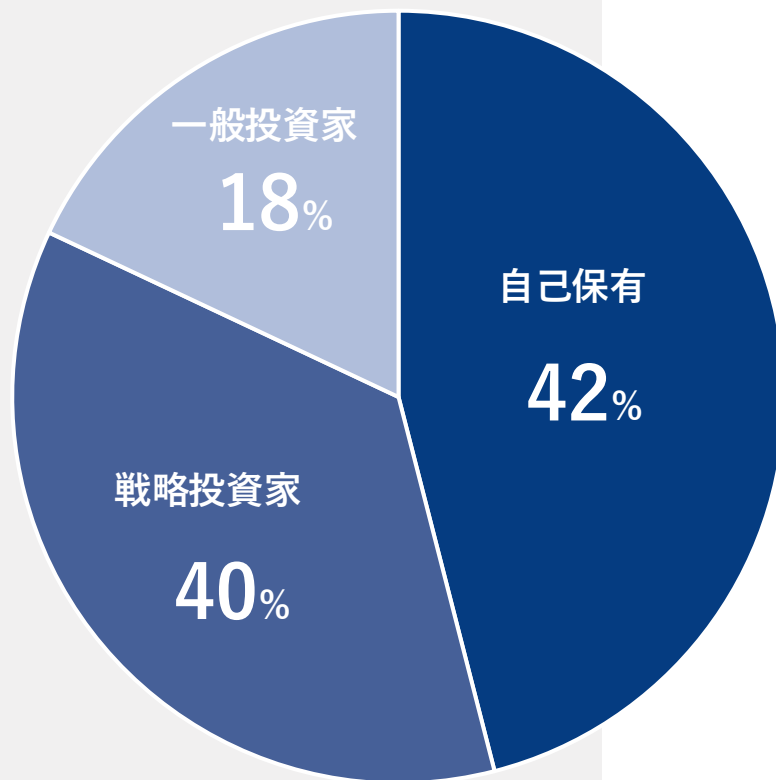


カイカコインとは

株式会社CAICA DIGITAL(証券コード：2315)が発行するイーサリアムネットワーク上で運用されるERC20規格に準拠した暗号資産です。2023年にはPolygon対応を完了し、マルチチェーン対応のコインへと進化しています。また2024年6月現在、国内暗号資産交換所Zaif及び、海外取引所FinexBoxに上場しています。

カイカコインは上場企業CAICA DIGITALが発行し、7年に及ぶ運用実績を持つアルトコインです。

CAICA DIGITALの責任のもと活用シーンの増加に資することでさらなるカイカコインの価値向上に努めてまいります。



2023年10月末日時点の保有状況を掲載

カイクォイン発行状況

発行可能枚数	300百万CICC
上場取引市場	Zaif(国内) FinexBox(海外)
時価総額 ^{※1}	678百万円
取引価格 ^{※1}	2.26JPY/CICC

1. 9月12日現在の時価、及び現時価を参考に算出

バリューアップの三つの視点

01

市場環境好転

BTC価格の上昇、金利のピークアウトなどカイカコインにとって好材料となる市場環境が整いつつあると考えます。

02

実績と信頼

数多に存在するアルトコインの中で、カイカコインは約7年間に渡り上場企業の当社が運用してきた実績を誇ります。

03

用途拡大に伴う需要の増加

カイカコインはGameFiで活用されるゲームコインを目指しております。ゲームコインとしての利便性が拡がり、需要が増すことで価格の上昇が見込めると考えます。

本資料について

- 本資料は、株式会社CAICA DIGITAL（以下、当社）の決算情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資に際しては、ご自身の判断と責任において投資判断を行って頂きますようお願い致します。また、本資料の記述内容につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。
- 本資料には、当社および連結子会社の計画など将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、作成時点において入手可能な情報に基づいており、様々なリスクや不確実性が内在しています。従って、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
- 本資料は一部(百万円)または(千円)以下を切捨てて掲載しております。一方、前期比等については切捨て前の数字を参照し計算しております。